

サイバー・キャンパス・コンソーシアム
平成21年度第5回統計学委員会 議事概要

I. 日時 平成21年3月2日(月) 15:00~17:00
場所 社団法人私立大学情報教育協会事務局

II. 出席者 高橋、中西(座長担当)、今泉、渡辺委員 (事務局 井端、平田)

III. 検討事項

今回は最初に日本学術会議の学士力の取り組みについて紹介した後で、来年度の委員会の検討内容やスケジュールについて下記のとおり確認した。

1. 日本学術会議での学士力の取り組みについて

文部科学省は、学士力のとりまとめを日本学術会議に付託しており、現在、日本学術会議では以下の3分科会で学問共通で、21年8月から検討が開始される。

① 質保証の枠組み(北原委員長)

教授法、学習指導、水準までを想定して検討している。当協会でも同様に検討したい。

② 教養/共通教育に関する分科会(藤田委員長)

③ 大学と職業の接続問題(高祖委員長)

授業を通じた人材育成、教員の質が問われる。

当協会の学士力も①分科会でも参考にしたい。

2008年12月にまとめられた「学士課程教育の構築に向けて」の具体的な実施として、高大接続テストの実施を2010年秋に試案とりまとめることになっている。

2. 本委員会の活動内容

昨年11月に、昨年度委員会でまとめた学士力の中間報告を文科省に提出した。文科省からは、現役の教員の意見や社会人への意見も取り入れられ、大変参考になるとの感想だった。

(1) 検討内容

今後の委員会の活動として、今年中に以下の4つについてまとめることを確認した。

- ・ 共通能力(基礎能力)
- ・ コアカリのイメージ(大まかな範囲などイメージを作成)
 - ※ 20年度の学士力をもう少し細かくするイメージ
 - ※ 活用する能力向上を重視。(例題なども掲載できれば教員に役立つ)
- ・ 能力判定・測定方法
- ・ 学士力達成のための分野別の情報教育と到達目標

※ ガバナンスについても分野別に必要なものがあれば、含めて検討する。

※ 教育目標は資格取得でないことは各分野の共通理解とする。

※ 学士力の分野掲載順序は、教育学や統計など教養系の分野は、基礎として最初のほうに掲載する。

20年度は各学問固有の能力をまとめたので、21年度は基礎能力として、文科省の「学士課程教育の構築に向けて」の「学士課程共通の学習成果に関する参考指針」にあるコミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決能力などを参考に、統計学で必要な基礎能力について検討することにした。また、これは、評価の指標を検討する意味でも必要な内容であることを確認した。

基礎能力については、「統計を理解するために必要な能力」、あるいは、「統計学を身につけたことで得られる基礎能力」のどちらでもよいこととする。

(2) 進め方

統計学における基礎能力は、文科省の「学士課程共通の学習成果に関する参考指針」の汎用的技能（コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決能力）を参考に、統計にあてはめて検討してみる。

次回委員会までに下案を出していただき、事前にメールで意見を出し合う。

3. 次回委員会

6月18日または25日のどちらか開催することにし、詳細はメールで調整した上で決定することにした。